

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名		設置認可年月日		校 長 名		所 在 地		
新東京歯科技工士学校		平成22年4月1日		福原 達郎		〒143-0016 東京都大田区大森北1-18-2 (電話) 03-3763-2211		
設 置 者 名		設立認可年月日		代 表 者 名		所 在 地		
学校法人 東京滋慶学園		昭和61年 2月1日		中村 道雄		〒143-0016 東京都大田区大森北1-18-2 (電話) 03-3763-2211		
目 的		歯科技工士科Ⅱ部は患者の笑顔と健康をサポートできる、基本が徹底的に強い、凛とした医療人(歯科技工士)を養成します。						
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与		
医療	歯科技工士専門課程	歯科技工士科Ⅱ部	3年(夜)	2252時間	平成22年文部科学省告示第百五十三号	—		
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技		
		960時間	単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	1292時間	単位時間 (又は単位)		
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数
105人		68人		5人		35人		40人
学期制度		■前期：4月1日から9月30日 ■後期：10月1日から3月31日		成績評価		■成績表(有) ■成績評価の基準について AA(90点~100点) A(80点~89点) B(70点~79点) C(60点~69点) D(59点以下) C以上で合格、Dで不合格 ■成績評価の方法について 試験の結果、出席状況、学習態度、実習作品で評価する。		
長期休み		■学年始め：4月1日 ■夏 季：8月10日から8月20日 ■冬 季：12月25日から1月5日 ■春 季：3月20日から3月31日 ■学 年 末：3月31日		卒業・進級条件		■成績評価 C以上 ■出席日数・取得時間数 授業時間数の2/3以上 *但し、指定科目は2,200時間 以上取得しなければならない。		

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ■クラス担任制（有） ■長期欠席者への指導等の対応 担任から家庭への定期的な電話連絡の他に、必要に応じて、個人面談、三者面談を実施する。 	課外活動	<ul style="list-style-type: none"> ■課外活動の種類 <ul style="list-style-type: none"> ・歯科技工士会と連携したボランティア活動（手型とり等） ・各種講習会、デンタルショーの参加 ■サークル活動（有） ほるほるクラブ （歯型彫刻トレーニングを行う）
就職等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ■主な就職先、業界等 歯科技工所、歯科診療所、大学歯科病院、歯科機材メーカー ■就職率 100% ■その他 進学者 1名 (平成26年度卒業者に関する 平成27年3月時点の情報) 	主な資格・検定	歯科技工士免許
中途退学の現状	<ul style="list-style-type: none"> ■中途退学者 2名 ■中退率 3.6% 平成26年4月1日在学者 58名（平成26年4月入学者を含む） 平成27年4月1日在学者 56名（平成27年3月卒業生を含む） ■中途退学の主な理由 精神疾患、家族問題 ■中退防止のための取組 電話連絡・個人面談・三者面談実施及びSSC（学校カウンセラー）との連携強化 		
ホームページ	URL: http://www.dt.ntdent.ac.jp		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

業界が求める人材要件(知識・技術・人間性等)を明確にし、企業・業界団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識・技術を反映するための場とし、次年度カリキュラムに活かしていく。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年5月1日現在

名 前	所 属
福原 達郎	新東京歯科技工士学校
三觜 雅子	新東京歯科技工士学校
高橋 友深	新東京歯科技工士学校
中村 聖之	新東京歯科技工士学校
今井 リカ	新東京歯科技工士学校
小島 三知長	新東京歯科技工士学校
鈴木 勝巳	新東京歯科技工士学校
西澤 隆廣	一般社団法人 東京都歯科技工士会
久木野 正宣	江東歯科技工士会
陸 誠	株式会社 コアデンタルラボ横浜

(開催日時)

第1回 平成27年6月11日 13:00~15:00

第2回 平成27年8月20日 13:00~15:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

在学中に、様々な臨床現場や歯科技工士の働き方を知ることにより、卒業後の進路決定や将来像の参考になるような機会とする。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
歯科技工学概論	企業で働く歯科技工士を知り、卒業後の進路決定の参考にする。	株式会社 GC
歯科技工実習	歯科技工士が働く現場(歯科技工所や歯科診療所)の見学や体験を通して、臨床現場の仕事の流れを理解し、卒業後の進路決定の参考にする。また、訪問先で接する人々に対するマナーを知ることを通して社会性を身につける。	YNKデンタル、T&Sプランニング、TTデンタル、株式会社コアデンタルラボ横浜、医療法人徳真会(株)ワールドラボ東京センター、(株)MDJ、I.S.Dental、自由通りデンタルラボラトリー、ベルデンタルラボラトリー、(有)アベックス、(株)ヘッドラボラトリーズ他

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

研修は教員の授業内容・方法及びクラス運営方法を改善し向上させるとともに、マネジメント能力を含む指導力の習得、向上させるために行う。研修の対象は一般教員、学科長及び教務部長とし、個々の教育経験、在職期間等を考慮し、それぞれの対象に応じた到達目標、研修方法並びに評価指標を定めて実施する

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年5月1日現在

名 前	所 属
鍛冶田 忠彦	昭和大学歯科病院
青柳 宏美	青柳デンタルオフィス
阿部 隆一	元法政大学高等学校
塩津 二郎	大田区蒲田歯科医師会
吉澤 和之	株式会社 オーリアラ
久木野 正宣	江東歯科技工士会

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.dt.ntdent.ac.jp>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.dt.ntdent.ac.jp>

授業科目等の概要

(新東京歯科技工士学校 歯科技工士科Ⅱ部) 平成27年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			外国語Ⅰ	歯科に関する英単語を中心とした歯科英語について学ぶ。	1 後	16	1	○		
○			外国語Ⅱ	基本的な日常英会話やトラベル英会話について学ぶ。	2 前	16	1	○		
○			造形美術 概論	歯や歯列のデッサンを通して、形態のとらえ方や、立体的な形態の表現力について学ぶ。	1 前	16	1	○		
○			歯科技工士 関係法規	「歯科技工士」として業務を行うために必要な「歯科技工士法」とその関連法規について学ぶ。	3 前	16	1	○		
○			歯科理工学 概論	歯科医療に関する全般的な知識や歯科技工の重要性・歯科技工物についての概略を学ぶ。	1 前	52	3	○		
○			歯科理工学 Ⅰ	金属、高分子、セラミックス、複合材料などの性質・成形法について学ぶ。	1 前	30	2	○		
○			歯科理工学 Ⅱ	歯科技工士が使用する様々な歯科材料、器具、機械の取扱い方について学ぶ。	1 前	30	1			○
○			歯科理工学 Ⅲ	金属、高分子、セラミックス、複合材料などの性質・成形法について学ぶ。	1 後	30	2	○		
○			歯科理工学 Ⅳ	歯科技工士が使用する様々な歯科材料、器具、機械の取扱い方について学ぶ。	1 後	30	1			○
○			歯科理工学 Ⅴ	金属、高分子、セラミックス、複合材料などの性質・成形法について学ぶ。	2 前	30	2	○		
○			歯科理工学 Ⅵ	歯科技工士が使用する様々な歯科材料、器具、機械の取扱い方について学ぶ。	2 前	30	1			○
○			歯科理工学 Ⅶ	歯科技工士が使用する様々な歯科材料、器具、機械の取扱い方について学ぶ。	2 後	30	1			○
○			歯科理工学 Ⅷ	金属、高分子、セラミックス、複合材料などの性質・成形法について学ぶ。	3 前	16	1	○		
○			歯の解剖学 Ⅰ	歯の形態や特徴、口腔内や頭部の骨・筋肉・神経などについて学ぶ。	1 前	46	3	○		
○			歯の解剖学 Ⅱ	歯のデッサンや石膏棒・ワックス棒で1.3倍大の歯型彫刻や等倍大の天然歯彫刻を行う。	1 前	60	2			○
○			歯の解剖学 Ⅲ	歯の形態や特徴、口腔内や頭部の骨・筋肉・神経などについて学ぶ。	2 後	30	2	○		
○			歯の解剖学 Ⅳ	歯の形態や特徴、口腔内や頭部の骨・筋肉・神経などについて学ぶ。	3 前	16	1	○		

○		顎口腔機能学Ⅰ	顎の動きや顎の動きに調和した噛み合わせ、技工物製作に使用する咬合器について学ぶ。	1後	16	1	○		
○		顎口腔機能学Ⅱ	フェイスボウトランスファーを体験し、半調節性咬合器の取扱い方について学ぶ。	1後	30	1			○
○		顎口腔機能学Ⅲ	顎の動きや顎の動きに調和した噛み合わせ、技工物製作に使用する咬合器について学ぶ。	2前	16	1	○		
○		有床義歯技工学Ⅰ	虫歯や歯周病によって歯を失った場合に装着する義歯(入れ歯)について学ぶ。	1前	30	2	○		
○		有床義歯技工学Ⅱ	義歯(総入れ歯)の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	1前	90	3			○
○		有床義歯技工学Ⅲ	虫歯や歯周病によって歯を失った場合に装着する義歯(入れ歯)について学ぶ。	2前	46	3	○		
○		有床義歯技工学Ⅳ	義歯(部分入れ歯)の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	2前	150	5			○
○		有床義歯技工学Ⅴ	虫歯や歯周病によって歯を失った場合に装着する義歯(入れ歯)について学ぶ。	3通	36	2	○		
○		有床義歯技工学Ⅵ	金属床義歯の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	3前	60	2			○
○		有床義歯技工学Ⅶ	実習トレーニング、実習試験を通して、日頃の実習で習得した知識や技能の確認をし、今後の課題を見つける。	3後	30	1			○
○		歯冠修復技工学Ⅰ	虫歯などで削られた患者さんの歯に合った人工物(クラウンやブリッジ等)について学ぶ。	1後	46	3	○		
○		歯冠修復技工学Ⅱ	虫歯などで削られた患者さんの歯に合った人工物(クラウンやインレー)の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	1後	120	4			○
○		歯冠修復技工学Ⅲ	虫歯などで削られた患者さんの歯に合った人工物(クラウンやブリッジ等)について学ぶ。	2後	46	3	○		
○		歯冠修復技工学Ⅳ	虫歯などで削られた患者さんの歯に合った人工物(クラウンやブリッジ)の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	2後	120	4			○
○		歯冠修復技工学Ⅴ	陶材焼付金属冠の製作方法や陶材についての知識及び取扱い方について学ぶ。	3前	20	1	○		
○		歯冠修復技工学Ⅵ	陶材焼付金属冠の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	3前	60	2			○
○		歯冠修復技工学Ⅶ	実習トレーニング、実習試験を通して、日頃の実習で習得した知識や技能の確認をし、今後の課題を見つける。	3後	30	1			○
○		矯正歯科技工学Ⅰ	矯正治療を行う上で必要な理論や矯正装置の製法について学ぶ。	2後	16	1	○		
○		矯正歯科技工学Ⅱ	矯正治療を行う上で必要な理論や矯正装置の製法について学ぶ。	2後	16	1	○		

○		小児歯科 技工学Ⅰ	小児の歯・顎・顔面の成長発育の特徴、 小児歯科で用いられる修復物、各種装置に ついて学ぶ。	1 後	16	1	○		
○		小児歯科 技工学Ⅱ	小児の歯・顎・顔面の成長発育の特徴、 小児歯科で用いられる修復物、各種装置に ついて学ぶ。	1 後	16	1	○		
○		歯科技工 実習Ⅰ	歯型彫刻、実習トレーニング、実習試験 を通して、日頃の実習で習得した知識や技 能の確認をし、今後の課題を見つける。	1 前	32	1			○
○		歯科技工 実習Ⅱ	歯型彫刻、実習トレーニング、実習試験 を通して、日頃の実習で習得した知識や技 能の確認をし、今後の課題を見つける。	1 後	44	1			○
○		歯科技工 実習Ⅲ	歯型彫刻、実習トレーニング、実習試験 を通して、日頃の実習で習得した知識や技 能の確認をし、今後の課題を見つける。	2 前	106	3			○
○		歯科技工 実習Ⅳ	歯型彫刻、実習トレーニング、実習試験 を通して、日頃の実習で習得した知識や技 能の確認をし、今後の課題を見つける。	2 後	70	2			○
○		歯科技工 実習Ⅴ	歯型彫刻、実習トレーニング、実習試験 を通して、日頃の実習で習得した知識や技 能の確認をし、今後の課題を見つける。	3 前	152	5			○
○		歯科技工 実習Ⅵ	歯型彫刻、実習トレーニング、実習試験 を通して、日頃の実習で習得した知識や技 能の確認をし、今後の課題を見つける。	3 後	138	4			○
○		選択必修Ⅰ	有床、修復、理工、解剖の模擬試験及び解 説講義を行う。	2 後	30	2	○		
○		矯正歯科 技工学Ⅲ	矯正装置の製作を通して、矯正歯科技工 に必要な基本的な製作技術と矯正歯科治療 の流れを学ぶ。	3 前	10				○
○		小児歯科 技工学Ⅲ	クラウンループやクラウンディスタルシ ューの製作を通して、小児歯科技工に必要な 基本的な製作技術と小児歯科治療の流れ を学ぶ。	3 前	10				○
○		選択必修Ⅱ	顎口腔、矯正、小児の模擬試験及び解説講 義を行う。	3 前	10		○		
○		選択必修Ⅲ	国家試験(学説)の全指定科目(8科目)の 模擬試験及び解説講義、卒業見込認定試験 及び卒業認定試験を行う。	3 通	146	9	○		
合計				49 科目	2,252 時間				